

## 2. パブリックコメント ご意見・ご感想とお返事

### いたばし福祉の森 2022-2025 (第四次板橋区地域福祉活動計画) <中間まとめ>

#### (1) 実施概要

- ① 募集期間 令和3年12月24日(金)～令和4年1月31日(月)
- ② 周知方法 いたばし社協ホームページ、社協会報 Vol.28 (12/13 発行)、MyTown いたばし Vol.130 (12/18 発行)、広報いたばし (1/8 号)、民生・児童委員協議会、区関係各所へのチラシの配架等
- ③ 対象
  - ・区内在住・在勤・在学の方
  - ・区内に事務所・事業所を有する個人・法人・各団体
  - ・区内で活動する個人・法人・各団体
- ④ 募集方法 いたばし社協ホームページ (Google フォーム)、窓口、郵送、FAX、Eメールにて
- ⑤ 集計結果

Google フォーム	9件
窓口	1件
郵送	2件
FAX	3件
Eメール	3件
合計	18件



たくさんの貴重なご意見を  
ありがとうございました！

#### (2) 第四次板橋区地域福祉活動計画 パブリックコメント一覧

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
1	サロン	<p>ゴーゴー元気かいは笑いヨガ(コロナの為笑いは休み)。 令和4年度は10の筋トレをお願いしました。ベル 🔔すずらんは季節の優しい曲を演奏して楽しんでいます。 難しい事は分かりませんが、2時間楽しかったを聞けたら満足です。回答になってませんね。</p>	<p>いつも活発なサロン活動を行っていただきありがとうございます。 参加してよかった！と感じられる活動は、参加者みなさまにとって、とても充実したものです。「楽しい」から、優しさや心地よいつながりが生まれてきます。そのことから福祉の森サロンは、この活動計画においても重要な位置を占めています。 みなさんのサロンが、これからも「楽しい」活動ができるよう応援していきますし、活動計画の”彩り”として映えることを期待しています。これからもよろしく願いいたします。</p>
2	社協事業利用者	<p>声かけてもらえれば行ける時(とこ)には行きたい。(目指している方向は)いいと思う。</p>	<p>いつもありがとうございます。 基本目標3は、あなたらしくいられる場を増やしてつながるです。声をかけられるような場をたくさん作っていくことを計画しています。ぜひ、ご参加ください。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
3	社協事業利用者	<p>ぬくもりサービスなどを中期的に利用させて頂いており、大変お世話になっております。本計画も一目拝見致しましたが、やはり様々な福祉活動の単語や活動内容、活動範囲の理解が難しく感じます。担当とお話して、少しずつわかるようになるのですが、利用者としては各種サービスから利用目的に当てはまるものを選ぶ感覚となり、サービスが当てはまらなくなったら必要としていても契約終了になってしまうことが課題かと思えます。理想的には利用者の利用目的から必要なサービスを選べるようになり、必要な分だけサービスを利用できる利用者に寄り添った福祉形態になると、嬉しく思います。</p> <p>難しい面もあるかと思えますが、どうぞよろしくお願いたします。</p>	<p>制度外のサービスには、関わってくださる方の温かみのあるボランティア精神に基づき、柔軟に調整できる部分もあると思います。これからも、活動される方、利用される方双方にとって良いつながりとなるようなお手伝いができればと思います。</p> <p>特にぬくもりサービスでは、障がいや疾病の有無に関係なく、また、利用会員であっても活動できるチームサポートや両方登録、ちょこっと30などのメニューを取り揃えています。</p> <p>今後とも、利用者にも活動者にも寄り添える福祉形態を模索してまいります。</p>
4	民生委員・社協事業生活支援員	<p>・私が地域で生活支援員として活動していますが、あらゆる場面で社協が後ろ盾となって支えて頂いている事を実感しています。</p> <p>・基本理念にあるとおり「地域共生社会の実現/包括的な支援体制の構築」は進んでいると感じております。</p> <p>・私の「できること」が少しでも役立っていると感じられ、その後ろ盾に社協の存在があることを何より有難いと思っています。</p> <p>・先般、高島平地区民生委員の会議で、障がい者部会の企画した研修を受講しました。板橋区肢体不自由者父母の会会長の方が講師でした。一人では出来ないことでも、父母の会という組織を活用することによって、出来る事があるという事がわかりました。</p> <p>・研修のバックアップ体制も今以上に対応して頂けることを希望します。</p>	<p>いつも社協の理念や活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。社協が地域福祉を推進していけるのは、みなさまのような地域福祉を担っていただけの方がいてこそです。</p> <p>活動の実践者や当事者のお話ほどリアルが伝わるものはありません。そのリアルが人と突き動かし、地域を変えていくのだと思います。この活動計画においても、そうした方々のリアルを自然に、普通に伝え、感じることができる場を作っていくことがポイントになっています。</p> <p>より多くの方に理解者・活動者になっていただくためにも、各種研修や勉強会等の開催に積極的に取組んで参ります。</p>
5	フードバンクいたばし・民生委員	<p>地域福祉活動を行う際、必ず地域センターに一報を入れるなりして、協力してほしいです。地元の町会・青健の面々を良く知る立場の方々の協力があつて効果的ともなるかと。又、状況に応じては、包括・おとセンも。</p> <p>(新しい)創造する福祉</p> <p>こども食堂運営の方々は創造する福祉の担い手であり、高齢者福祉とは違う視点からの新しい提案が多いと思われます。</p> <p>無理なくリモート等でも活動を支援し、意見を聴取なさせて下さい。ひいては高齢者福祉と協同の可能性もあり、新しくサポート委員として入ってくれるかもしれません。</p> <p>今の時代、社協様も大変と存じます。頑張つてメリハリをつけ、福祉の担い手を育ててください。宜しくお願いたします。</p>	<p>今般の計画の基本理念である「地域共生社会の実現」は、従来の福祉の分野を超えた包括的な支援体制を構築していくことです。ご指摘のとおり、地域の団体・組織と関係性があり、様々な情報の収集・発信を行っている地域センターとの連携は、大変重要であると思います。</p> <p>また、子ども食堂を運営している方々とは、社協の子どもの居場所づくり活動支援事業によるつながりがあります。これも子どもという分野に捉われず、多世代交流や異業種との連携などの活動の展開、そして活動をとおして次の担い手を育てていくことを検討します。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
6	ボランティア活動者	<p>私は八十才を過ぎ、埼玉県からこの板橋区へ転居、つい先日「福祉の森」活動を知りました。私の知人・友人はこと活動を知っている人はいません。参加できそうなサロンが幾つか見つかりました。</p> <p>でもスポーツの活動は余りありませんね。高齢者の健康はまず体を動かすことが大切です。高齢者には卓球が良いのですが、その卓球が出来る場所がありません。何とかしてほしいのです。</p> <p>私は現在、あずさわ体育館へ行っています。三田線に乗って行きます。とても大変です。それに若い人、中年の人ばかりです。年寄りは一人居れば楽しめると思います。</p> <p>プールへも行っています。そのおかげで元気です。昼間のハッピーロードには杖をついたお年寄りが多く見られますがとても淋しそうです。</p> <p>川越市にいる時は養護老人ホームの卓球ボランティアをやっていました。</p> <p>このサロンマップのことを知らないお年寄りが多いのではないかと思います。もったいないですね。</p>	<p>板橋区ではとても活発にサロン活動が行われています。各サロン、参加者のやりたい！をカタチにして様々な活動をされています。今後もいろいろな活動に広がるよう、お手伝いさせていただきます。</p> <p>仰っていただきました通り、これからは必要としている方に必要な情報がちゃんと届けられるような工夫が求められると思います。サロンそれぞれの活動をなるべくわかりやすく多くの方に伝えられるよう、これからはがんばってまいります。</p>
7	一般区民	<p>全体的に現在福祉に関わっていらっしゃる方の考えが述べられているばかりで、現実の地域住民の感覚を理解されていない印象を受けました。</p> <p>第一に、近所同士で関わりを持つという住民ばかりではありません。そういう関係を煩わしく思う人もいるでしょう。そのような考えの人をも尊重する「多様性」が必要です。実際に子どもに対して声掛けをした人が警察に通報されて「不審者」として警視庁から情報が配信されています(板橋区内の警察署配信の資料を同封します)。これらは、「君たち何年生?」とか、「小学校はどこ?」など、田舎のおじさん/おばさんなら当然のごとく見かけた子どもに掛けている言葉です。また、このような声掛けが犯罪に至る蓋然性もありません。福祉担当者が声かけをすればよいのでしょうか、一般市民が声掛けをしてしまうと警察に通報されて面倒なことになってしまう危険があります。私自身も通報されることを恐れて、困っていそうな人がいても、声をかけるようなことは控えるようになりました。緊急ならば消防や警察に通報するくらいはしますが、それ以上のことをしてこちらが犯罪者扱いされてはたまりません。</p> <p>第二に、困っている人も近所の人から助けをもらいたいと思っている人ばかりではありません。私はシングルマザーさんの支援に少しだけお手伝いをさせてもらっています。近所の人には困窮していることを知られたくないからと、わざわざ遠方まで支援物資を受取りに来る方もいるそうです。直接関わりたくない方も多いようなので、この数年はお金を寄付しているのみです。(昨年は12万円を寄附しました)。</p>	<p>仰っていただいている通り、近所同士の関わりを煩わしく思う方、近所の人からは助けをもらいたくない方など、様々な価値観・考え方がございます。</p> <p>今回の活動計画では、そうした方も含めたつながりのあり方が一つのテーマになっています。</p> <p>最終まとめに向けて、つながりの重要性を示しながらも、人それぞれにとって心地の良いつながりのあり方について検討します。</p> <p>また、地域の支え合いでの解決にはあまり適さない課題や困難をお持ちの方もいらっしゃいます。そういった方々への関わり方も、行政や関係する機関とも連携しながら引き続き検討して参ります。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
8	板橋区 手をつなぐ 親の会	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出やイベントの自粛が必要とされ、これまでのような地域福祉活動やボランティア活動を進めていくことが困難な状況におかれまして。そのような中でも地域との“つながり”を継続するために創意工夫し、新たな取組みを生み出していただきました。社会福祉協議会の皆様方にはあらためて感謝しております。</p> <p>また、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置についていくつか記載がありました。</p> <p>「持続可能な開発目標」(SDGs)の根底にある理念「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた実践として、大変期待しております。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響は本当に大きく、新しい生活様式、つながり方の検討が必要となりました。そんな中でも、いろいろな形で“つながり”を継続できたのは、地域のみなさまとともに考え、歩んでこれたからに他なりません。ありがとうございます。</p> <p>コミュニティソーシャルワーカー(CSW)については、多様な役割が期待されますが、これまでの皆さま方の“つながり”が土台としてあって、その“つながり”のつながり易さや広がり、強化が主要な役割であると考えています。</p> <p>よって、CSWの配置及び活動の実践におきましても、これまで以上に皆さま方と連携して取り組んでいく必要があると考えています。</p>
9	サロン	<p>社協の存在がまだ半数にしか知られていないことに驚きました。いい活動をしているので、もっと区民のみなさんに知ってもらえるような広報が必要だと思いました。将来に不安を感じている人が4割いるので、地域で支え合って行けるように、社協の活動は大切だと思いました。住民が高齢化しているので、受けられる援助をわかりやすく伝えて欲しい。</p>	<p>社協そのものの存在や活動等がまだまだ広くお伝えしきれていないことを再認識し、情報発信・PR不足を痛感しています。社協の情報発信不足は、福祉の森サロンをはじめ地域の皆さんの活動を伝えていないことと捉えて、これからの重要なテーマの1つとして取組んでまいります。</p>
10	社協事業利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協で実際にお世話になるまでの手続きが完了するまでは、不明な点が多くあり不安が大きかったが、支援が始まると安心できる事が多く、有難いと思いました。</li> <li>・身近な存在に今現在は感じられますが、その他の業務内容はあまり良く理解できていません。</li> <li>・自分に関係したところは、本当に有難いと感じています。</li> </ul>	<p>少しでも安心をお届けでき、うれしく思います。今後とも、不安や困難を抱えた方々のお役に立てるよう精一杯取組んでいくとともに、わかりづらい内容もできる限りわかりやすくお伝えする努力をして参ります。そして、社協とのつながりをきっかけに、地域の様々な人々や活動と出会うことを期待しています。</p>
11	民生委員	<p>民生委員としての活動は福祉の幅が広く、専門家や社協の支えなくしては出来ません。広い視野を持った様々な方々と繋がり一体感を感じながらの活動は安心感があります。</p> <p>福祉の森が大きく育ち地域を温かく包む活動になる事を希望いたします。</p>	<p>民生・児童委員のみなさまの活動範囲は本当に多岐に渡っており、いつも地域を支えてくださってありがとうございます。福祉の森が大きく育ち地域を温かく包む活動となるためにも、この活動計画においてもキーパーソンとなっている民生・児童委員の皆さまが少しでも安心して活動できるような取組みや協働できる体制づくりについて検討します。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
12	居宅介護支援事業所	<p>地域における情報弱者となっている世帯(高齢者、障がい者等)に対し、民生委員、町会、包括、保健福祉センターなどの専門職が生活状況を把握するために定期訪問するシステムがあると良いと思います。社会的ハンデキャップを抱える方々は自らSOSが出せない状況にあったり、どこに相談すべきか分からないこともあるようです。様々な支援計画を検討していても必要な方に行き届かない現状もあるので、情報提供のあり方、実態把握の仕方について検討すべきかと思えます。</p> <p>要介護高齢者については  ①通院の付き添いや送迎が低額で行えるサービス  ②保険制度に縛られない御用聞きサービス  ③ふれあいポリスの柔軟化(増員など)</p> <p>障がい者(児)については  ①ろうあ者について、支援者が話した言葉をすぐに点字や活字に変換してくれる機能。(タブレットや眼鏡)  ②便利な道具として、透明のマスクで唇がはっきり見えるもの。在宅時に来訪者がわかるようなバイブ付きの椅子(クッション)、ランプ等。</p> <p>以上のような、サービスや道具があると良いかもしれないとの意見が集まりました。</p>	<p>情報が届かない・届きにくい方へ必要な情報をいかに届けるかは非常に重要な課題です。仰ってくださっている通り、情報提供のあり方、効果的に届けられる仕組み等について、今後検討していかねばなりません。</p> <p>また、挙げていただいたサービスや道具についても、公・民それぞれでできることを協力し合い、検討していく必要があると考えます。</p>
13	板橋区ダウン症児・者親の会「ほほえみの会」	<p>コロナ禍で繋がりが希薄になっていないか心配です。活動計画を拝見し、[こんな声がありました]と地域住民の声から基本目標を立てていただき、有難いと思いました。今後の活動に期待しています。</p>	<p>コロナ禍の影響は大きく、繋がりの希薄化が懸念されます。今回の活動計画は、アンケート調査やサミットⅡ、各事業等を通して寄せられた声から作ったものです。</p> <p>本計画の包括的な支援体制では、地域で暮らす一人ひとりに必要な情報を届け、一人ひとりの声を聴いて受け取る仕組みをつくるのが一番最初にあって、一番重要なことです。これからもみなさんの声をお聞かせください。</p>
14	民生委員・社協事業生活支援員	<p>わかりやすい版が良いと思いました。いろいろ詳細な説明があっても、普通の方には難しく感じると思えます。</p>	<p>小さなお子さまも含め多くの方に、いかに伝えられるかが重要であると考え、今回は「わかりやすい版」としてイメージ図を用意しました。少しでも多くの方に計画に触れ、興味を持っていただき、主旨を伝えることができたらうれしいです。</p> <p>また、計画は策定して終わりではありません。計画を実行し、多くの方に参加・協力していただくためにも、様々な形態の分かりやすい資料をお示ししていきたいと考えております。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
15	一般区民	<p>社会福祉協議会が、日頃から地域福祉の要として精力的に活動されていること大変感謝しております。今後のスタンスが明示されることとなる新たな「地域福祉活動計画」についても大変興味を持っているところではあるのですが、「中間まとめ」9～10 ページの内容について、釈然としないところがあります。</p> <p>板橋区において策定が進められている「地域保健福祉計画」の検討内容のなかで、包括的な支援体制の構築に向けた取組みとして、「相談機能」「コーディネート機能」「アウトリーチ機能」そして「地域づくり機能」の要となるポジションを担う「役割」として、「地域福祉コーディネーター」という『立場』の新設が打ち出されている一方で、「中間まとめ」においては、その『立場』に相当する「役割」を、既存の「SC」と新設する「相談支援包括化推進員」「CSW」で構成される「3種の専門職」によりシェアするような形で対応していくことを想定しているように読み取れます。</p> <p>板橋区内の各エリア(4 ブロック 18 地域)において、社協による3つの支援領域(地域づくり・相談支援・参加支援)での活動(現地での協働・活動支援)と上記「3種の専門職」の配置があれば、「地域福祉コーディネーター」の新設は不要であるとのスタンスを取られているのでしょうか？ これらの業務は、すべて社協の職員・スタッフで担い得るとのお考えなののでしょうか？ 「地域福祉コーディネーター」については、そもそも社協として担う想定をしていないため言及していない、ということなののでしょうか？</p> <p>また、上記「SC」は、高齢者福祉政策由来で設置されてきたポジションであり、第2層協議体(支え合い会議)を含めて、その他の福祉分野やその複合課題への対応にも耐えられるものとして、十分に機能していけるのでしょうか？ 実態的に対処が困難なのではないのでしょうか？</p> <p>「地域保健福祉計画」と「地域福祉活動計画」とは、一体的策定・相互補完の関係性にあるとありますが、現時点ではまだ整合性が取れているようには思えません。PDCA サイクルを廻していくことを前提とするなかにおいて、まずはこういう考え方で始めてみます、といった整合性の取れた「モデル的設定」を「地域福祉活動計画」にて明示していただきたいと思えます。</p>	<p>的確なご指摘、ご意見ありがとうございます。3つに分けてお答えします。</p> <p>○地域福祉活動計画と地域保健福祉計画について</p> <p>今回の地域福祉活動計画は、板橋区の地域保健福祉計画との一体的策定と相互補完の関係であることを重要としています。よって、整合性が図られていなければなりません。</p> <p>中間まとめの段階では、ご指摘のとおり調整が不十分な部分がありましたので、最終段階に向け整合性を図ってまいります。</p> <p>○地域福祉コーディネーター(CSW)について</p> <p>地域保健福祉計画では、地域福祉コーディネーターの役割について検討段階ですが、地域福祉活動計画の中間まとめでは、地域と専門職が最も効果的に連携する方法として、3職種によるシェアする形を示させていただきました。</p> <p>また、社協は、社協職員・スタッフはもとより専門職は、地域生活を支援できる自らの限界を自覚し、地域と連携していく体制を構築していくべきだと考えています。</p> <p>○生活支援コーディネーター(SC)について</p> <p>SCは、介護保険事業の生活支援体制事業において配置されています。第2層協議体も当事業により設置された会議体です。SC及び第2層協議体では既に高齢分野に付随する形で多世代交流などの様々な取組みを行っていますが、個別の相談支援や複合課題までは対応できません。ゆえに、SC、地域福祉コーディネーター、相談支援包括化推進員の3種の専門職が、連携の中核を担う包括的な支援体制の構築が必要だと考えています。</p>
16	地域包括支援センター	<p>課題について、社協、地域、専門職それぞれの取り組む事が例示されていて、わかりやすかったです。各々が同じ様なことを別々に動くのではなく、一つの課題について、役割分担をして、協働しているといいと思えます。</p>	<p>包括的な支援体制の構築には、主要な関係機関の1つであるおとしより相談センターのみなさまとのより一層の連携が必要不可欠です。同じ方向を向き、一体的に取り組める連携・協働体制を今後ともよろしく願いいたします。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
17	板橋区 社会福祉士会	<p><b>【基本的方向 4】</b>            専門相談の窓口は、年齢や疾病、障がい特性など制度別に設定されていて、制度の狭間にいる人は対応が難しい。そのような人も含めて、一つ屋根の下で複数の課題が積み重なっているケースの場合は、どの部署が旗振り役を担うか等、役割分担が重要になるが、担当部署(制度)以外の知識が不十分で、どの部署とつながっていけばよいか模索しているうちに事態が進行していく危険性がある。            そのためには、専門職同士が、制度の垣根を越えて関係性を作っておくことが重要。            「〇〇系の△△さんに相談してみよう！」という顔の見える関係作り。            →板橋区社会福祉士会は、このネットワーク作りのために学習会や交流会を開催しているので、継続して取り組んでいきたい。</p> <p><b>【基本的方向 5】</b>            防災対策：日中と夜間では、地域にいる人は異なる。＊夜間は地域住民が自宅で過ごす。日中は通勤通学で不在の家族がいる。            →日中の災害発生時に力を発揮するのは、地域にある企業、店舗などの従業員。            災害対策を考えると、「発生時に地域にいる人」での取り組みを考え企業等の協力を得て組み立てていくことが必要だろう。</p> <p><b>【基本的方向 6】</b>            「私らしく、あなたらしくいられる場所を考える」            居場所を考えたときに、同じ境遇の場所を案内しがち(高齢者は高齢者、子どもは子ども)だが、100歳近くても「年寄り扱いされたくない」「こんな年寄りばかりの中にいると、自分がおじいさん(おばあさん)になった気がして嫌だ」と感じる人はいるし、「子ども扱いされたくない」子どももいる。子育て中の親御さんが、あえて同世代以外と話したいこともあるかもしれない。外国から来た方が、同じ出身国の集まりに出ても母国の地域によって文化風習が異なって馴染めないこともあるだろう。先天性の障がいと中途障がいでも生活状況は大きく異なる。引きこもりも理由は様々。            ただ一つ、共通していることは「たまたま、偶然、同じ時期に、この地域で暮らす人」というだけのことで、実はごちゃまぜで居ることが心地良く感じられるのではないか。            自分の特性を活かせる場所でも良し、「ただ、ここに居ること」が大切な場所でも良し。「ワタシは一人じゃない＝取り残されていない」と思える場所を作っていきたい。</p>	<p>地域共生社会の実現に向けては、地域と専門職がどう手をつなぎ合い、協力し合っていくかが非常に重要なテーマであると考えます。            仰ってくださったように、板橋の専門職として、板橋区における地域共生社会の実現に向けてこれからもともに歩んで参りたいです。今後ともよろしくお願いいたします。</p>

No.	所属・活動内容等	ご意見・ご感想	お返事
18	板橋区発達障害児者親の会 (IJの会)	<p>板橋区が、「地域福祉コーディネーター」(コミュニティソーシャルワーカー(CSW))の設置に取り組むことを歓迎します。</p> <p>以下、(CSW)の内容と方向性についての意見です。</p> <p>1)CSWの人材 CSWは、社会福祉士などの資格を持った職員を配置し、研修等の機会を充実し、職員の高度な専門性を育成し維持できるよう努めてください。 CSWは、少なくとも6圏域に配置し、CSWを中心として具体的な知恵を出し合うなど地域の力をつけていくことが望まれます。(なお豊島区では8圏域ごとにCSW各2名を配置しています)</p> <p>2)先進的な自治体を参照して、取り組んでください。 板橋区地域保健福祉計画 実施計画 2025によると、CSWの内容は3つ、①「相談機能」②「コーディネート機能」③「アウトリーチ機能」です。一方、これは支援の第一歩にしかすぎません。 とくに重要なことは、ひきこもりも含めて、社会的孤立や排除を防ぎ、「地域共生社会」を目指すという方策です。それは、まず地域内の問題を発見して、ニーズを明らかにする。孤立要因の分析評価を行う。そして、ニーズ対応型のサービスを開発する取り組みです。先進的な自治体を参照してください。</p> <p>3) CSW が問題を発見し、関係機関につなぐには関係づくりが必要 孤立している人たちが自らの置かれている状況を客観的に認識することは困難です。関係機関発信されている情報も届きません。さらに求められる手続きや行動をとることもできません。親がいなくなったら生きていくすべがありません。 親亡き後、当事者たちは、他人に「なんか困ってない？」と聞かれたら、「困ってない」というでしょう。あるお子さんは、「お母さん死んだらどうするの」と言われて、「俺も死ぬからいい」と言いました。 関係づくりには時間がかかります。信頼関係を構築することが大事です。</p>	<p>地域福祉コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー CSW)については、求められる機能や役割について協議・検討している段階にあります。板橋区の板橋区地域保健福祉計画 実施計画 2025(素案)においては、今後モデル地区を選定のうえ配置し実施状況を検討するとされています。</p> <p>地域福祉活動計画では、地域とのつながりを大切にし、行政や関係機関、多様な主体と連携していく仕組みをつくるのがCSWの役割りだと考えています。CSWは、一人で課題解決を図る特別な存在ではなく、地域づくりの中核を担う生活支援コーディネーター、サービス間調整の中核を担う相談支援包括化推進員等と連携して、地域の中に、ご本人に沿った支援体制を構築していくことだと考えています。</p> <p>そして最も重要なことは、ご本人の身近な方、自助グループの皆さんなどが、今までどおりご本人に寄り添っていただく土台があつてのソーシャルワークだと考えています。</p> <p>CSWの配置や役割等については、ご指摘の内容を踏まえまして行政とも検討をしております。本計画が、地域保健福祉計画と相互補完の関係にあることから、ご本人の居場所を見いだせるような地域づくりを進めていきたいと考えております。</p>